

ホーム名：グループホーム楠根の里					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念（その人らしく、心身共に穏やかに、楽しみや、張合いのある暮らしをする）を掲げ、地域密着の意義を、全職員が理解するように常に話をしている。月二回ボランティアが来られ、音楽療法、歌体操を実施中。	玄関正面の壁に、入居者が書いた理念がカード形式で掲示されている。“その人に合った、その人らしく、したい事を支援する”という事を実践に繋げている。	入居者一人ひとりをよく知る事が大切となる。介護計画や個人記録に反映させながら、今後も事業所理念の実践がなされる事を期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩では、近所の人達と挨拶を交わしたり、校区の小学校の行事に参加させて頂いている。毎月、小学校の便りを届けて頂き参加の声掛けを頂いている。	自治会に加入し、盆踊り等の地域の行事に参加している。小学校との交流、理事長の「食育」指導、地域での「独居の方の鍵預かり」、ボランティアの訪問・受け入れ等地域との結びつきを多く持つ。	地域の方々と触れ合う事で、事業所の理解や認知症の理解につながる。管理者の地域役員への積極的な声かけが、今後より一層の地域との結びつきに繋がる、と期待が持てる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年から、社会福祉社会主催の地域での独居の方の鍵預かりをさせて頂いている。地域の方が、安心され生活されるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括の方を交え、二か月に一度、開催している。ホームの現状報告、活動報告、今後の活動報告を行い、ホームで話し合いを実施中。4月から民生委員の方が参加されている。	2か月に1度、1階事務所に地域包括支援センター職員を交え開催している。現状報告・行事報告・今後の予定・その他報告等がなされているが、出席者の意見や感想は無い。4月からは民生委員の出席が得られている。	家族の出席がないのが残念である。運営推進会議の意義をよく伝え、多くの家族の出席に繋がられるよう努力されたい。報告の内容・議題内容について、更に工夫を望む。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の開催日時を伝え、議事録を送付している。また、寝屋川元気アップ介護予防ポイント事業のサポーター受け入れ施設として、毎月実施表を送付している。	運営推進会議の予定や開催後の議事録を高齢者介護室にファクスで送っている。保護課による来訪がある。相談事等はし易い関係にある。	運営推進会議の議事録だけではホームの実情は伝わらない。市職員にも会議への出席を呼びかけ、実情を見て頂く機会とされたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	元々の設備上、外出時の扉はカード鍵が必要であるが、事務所の扉を開けることで、開放的になるよう努めている。身体拘束をしないケアをスタッフが徹底に努めている。	会議等を通して、何が拘束になるのかを伝えている。介護食の形態や服薬の仕方についても、独断でしないよう職員全員で話し合いながらより良い方法を考え、支援している。玄関、各フロア出入り口は安全の為施錠されているが、館内は自由に行き来出来ている。	虐待を含め、どのような事が拘束・虐待にあたるのか、話し合いを持って理解を深めている。“自分の考えで推し進めないよう、全員で話し合いながらより良い支援を探り出していく”という姿勢を、今後も継続して行って欲しい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待なのかをスタッフ間で話し合いを行い、防止に努めている。		

8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員へ権利擁護の理解を持ち、活用出来るよう努めている。昨年7月から一階の入居者が成年後見人制度を利用されている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、解約時は、家族様に対し十分な説明を行い理解、納得に努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置し、いつでも感じたことを書いて頂けるようにしている。ただ、なかなか活用に至らない。</p>	<p>ホームでの日々の様子を便りで伝える様になり、家族との関係作りに努力が伺えた。家族の来訪もあり、話をする機会はあるが、意見や苦情等が寄せられる事は無い。「意見箱」の設置もあるが、投書は無い。</p>	<p>今回の外部評価に於けるアンケートの回収率は大変高く、好意的な内容であった。ホームへの意見や苦情は支援の充実へと繋がるものである。積極的な声かけ、また何でも言って貰える関係作りを今後も大切にしたい。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>スタッフと信頼関係を持ち、スタッフの意見、提案を聞く機会を設けるよう努めている。</p>	<p>職員が積極的に意見や提案を出してくれ、おやつ作りや七夕飾りについて等大いに反映されている。自主的に「レクリエーション指導者」の資格を取った職員もおり、その他職員もそれぞれ力を発揮している。</p>	<p>定年は無く、年配の職員も活き活きと働いている。今後もチームワーク良く、意見を出し合いながら支援の充実につけて欲しい。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各職員が、やりがい、向上心を持つことが出来る職場環境、条件の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修を各職員に行ってもらい、研修後は研修の記録を記入してもらい、すべての職員が参照し、捺印を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域包括主催の地域ケア会議への参加、CM事業所の連絡会の参加を通じ、ネットワーク作り、勉強会に努めている。</p>		

15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前、各職員へ入居者の情報を伝え、入居者の理解に努めてもらい、職員間でカンファレンスを行い、情報を共有し、入居者との信頼関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居の段階で、家族様が困っていること、不安、要望を傾聴し、職員間で共有し、日々の様子観察を報告することで、家族様との信頼関係につなげている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要としている支援の見極めには本人、家族様の訴えを傾聴する姿勢を大切にしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>7名の方が、家庭的な雰囲気でも過ごせるようにするために、職員は、その方を支えようと努めてもらっている。</p>		
19		<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族と職員がともに、本人を支えていけるよう、日々の様子を家族様にしっかり報告を行い、ともに支えている関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人がこれまでに大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を家族様から聞きだし、継続できるよう支援している。</p>	<p>学生時代の友人達が来訪して下さる方、たまに自宅へ帰られる方など、今までの関係が継続される支援に努めている。近所の公園に出かけたり、小学校との交流も続けている。</p>	<p>旅行が好きだった方とは、旅行ガイドや地図を広げて楽しいひと時を過ごすこともあるとの事。好きだった事や続けてきた事が今後も楽しみとなって続くよう、支援の継続を願う。</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日々の様子観察、担当者会議を通して、利用者間の関係の理解に努めている。入居者間との関係が円滑になるよう居室変更を実施することがある。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>利用が終了されても、引き続きの相談をされるよう声掛けを行っている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続け相談					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話を大切にし、家族の方を交え、話し合いの機会を持っている。	傾聴に心掛け、思いを導き出す様に努めている。把握の仕方や接し方など、話し合いながら職員間統一した支援で対応している。研修でも接遇を学んでいる。	今後も傾聴を大切に、入居者と心を通わせながら気持ちを探り当てる事に努力されたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	家族様に聞くこと、以前のCMからの情報を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握を日々の申し送りの中で理解している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者がいつも総合的に把握し家族様、関係者へ連絡調整を行い、介護計画、モニタリングに反映している。	検討会議を毎日行い、モニタリングを毎月1回、介護計画は3か月毎に作成し、家族に郵送している。医師とも積極的に話し合い、家族にも要望等を聞きながら、“その人なり、その人らしく”を大切にしながら介護計画の作成に努めている。	月間スケジュールには、レクリエーション、散歩、廊下歩行など毎日の予定が記されている。楽しく取り組み張り合いのある毎日が送れるよう、介護計画の中にも活かされたい。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子観察を記録に残し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるための、柔軟な考えを持つよう努めている。1Fは、塗り絵、読書、パズル、将棋、ドリル等、積極的にされている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括から教えて頂き、公民館での体操教室へ参加され、地域の方との交流に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療を実施し、また精神面の不安定な方が、不穏なく過ごされるよう、主治医以外の医師に来ていただき処方等の検討をされている。	協力医療機関との連携で医療計画書があり、入居者に対する適切な情報交換で薬に頼らない支援を心がけている。歯科受診時、同伴支援を行っている。日本調剤による服薬管理も行われている。	事業所と医療関係との情報交換は日常的にあり、信頼関係も深いと思われる。今後も入居者の体調管理支援が続けられるよう期待する。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師が不在なため、管理者が直接、医師に上申し、指示を仰いでいる。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者の入院時は、病院側へアセスメントを渡し、退院時は病院側の相談員、病棟の看護師を交え、退院時カンファレンスを行っている。</p>		
33	<p>12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>病状の悪化時はホームで出来ることを家族様へ伝え、理解して頂き、入院を視野に入れ、対応している。</p>	<p>今年に入ってから数名の方が搬送先の病院で亡くなられた。管理者は終末期の介護研修を受けながら、今後看取りについても検討しなければならないと考えている。現状では急変時の入院受け入れが難しく拒否されることもある。</p>	<p>長年、事業所で暮らした102歳の方との別れを経験し、最後の食事する姿をしっかり覚えている。これまでの一つ一つの経過を共有し、家族とともに確認しながら今後について、充分活かされるよう期待する。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応を掲げ、すべての職員が実践出来るよう努めている。また、全入居者の家族様から延命措置に関する、意思確認書を頂いている。</p>		
35	<p>13 ○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防火訓練は年二回実施している。ただ認知症の方なので、覚えて頂いていないことを懸念している。</p>	<p>入居者14名と職員6名参加のもと出火を想定した自衛消防訓練が行われている。消防署より2階の入居者誘導はベランダ集合の指導を受けている。</p>	<p>火災だけではなく、あらゆる災害を想定して検討具体化されたい。運営推進会議等で地域への協力要請されては如何か。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員へ人格の尊重と、プライバシーの確保の大切さをしっかりと職員に認識してもらっている。	入居者に対して、ひとりの目で見られるのではなく、全員の目で見られるよう心掛けている。声掛けが増えて一人ひとりを大切に対応する努力がなされている。	声掛けすることが「あなたのことを思っていますよ」と伝わり、「大事にされている」実感、感情が笑顔になる。今後も相手を知る支援が続けられたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を大切にして、その中で、希望の表出を導き出すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、昼寝、レクリエーション等利用者一人ひとりのペースに合わせながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何を着るか本人に聞きながら、対応している。季節の変化を考慮し衣服の整理整頓を行い、補充の依頼を家族様に伝え、持参して頂いている。清潔不潔の区分困難な方はスタッフ側で管理している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	TVを中断し、CDを聞いて頂きながら、食事を楽しんで頂く。	シルバー献立食として、メニュー・材料が届けられ、調理職員がアレンジしながら仕上げている。入居者の状態に合わせてとろみ、ペースト状態にして食べやすい工夫がされている。自作菜園の野菜、いちごも食卓にでる。	赤飯、バラずしに人気がある。誕生日にはタコ焼きパーティーを行った。理事長が作る米・みそ、そして、おはぎも提供され温かい雰囲気が入居者に伝わっていると感じた。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	栄養士によるカロリー計算のもと献立、調理を行っている。食事量水分量は時間、量を記録し、少量の場合は補食等検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして頂いている。出来ない利用者は、職員が介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表にて記録し、個別に排泄パターンを理解し、声掛け、誘導を行っている。	布パンツで過ごす入居者に対して見守りながら継続を願っている。トイレは使用後の変化が一目瞭然でわかるように整理され不要な持ち込みはない。支援に必要な物はすべてワゴンに集中している。	トイレの中に「大便が出たらお知らせください」と大きな文字で貼り出されている。これに応え知らせてくれる入居者がいると聞いた。働きかけることの大切さを感じた。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便も記録し、便秘の方は、水分の飲用、運動を心がけ、どうしても無理な場合はDr.に上申し、下剤の服用をして頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日、時間は一応決めているが、利用者が入浴を拒否された場合は無理に入浴されず、時間を改めたり、曜日を改め、臨機応変に入浴を実施している。	入浴時に、動きにふらつきがないか、皮膚の状態等を観察し保湿剤を使用するなど適切な支援に繋いでいる。日曜日は入居者全員の足浴を行い入居者と話す時間を大切にしている。	個別に係わる入浴時間は普段話さないことも、生活習慣も教えてくれる機会になる。心から楽しんでもらえる支援を願う。

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別で対応し、休めないと訴えるときは、傾聴に努めている。また、Dr.への上申を行っている。眠前の服用をされ、様子観察に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は調剤の方に管理して頂いている。内服の変更時は申し送りを行い、職員に伝えている。内服変更時は様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームでのお手伝いをして頂くことで、張合いを持って頂いている。洗濯干し、洗濯をたたむ、シーツ交換、モップ、等。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日課で散歩を取り入れている。また、近隣の小学校の行事に参加されている。家族様より前もって外出の要望をされたときは、準備をし、スムーズに出かけて頂けるよう努めている。	芋ほりに参加した入居者の生き生きとした表情が写真に納まっている。近所を散歩のときに地域の人から「花持っていき」と声をかけられる。高齢化で、「しんどい」行きたがらない事もあり、全員での計画は難しくなっている面もあるが一人ひとりの要望に応える支援が大切にされている。	日常的な外出支援を続けられていることは素晴らしいことである。地域社会との繋がりなどで五感を刺激し、生きていることが実感できる機会にもなる。共感しながらの支援になるよう期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すべて一旦ホームで出している。本人様が自身でお金の所有がある方は、財布の置かれている場所をスタッフ間で理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙は希望あるときは、職員がお手伝いをさせて頂いている。毎年、年賀状を出せる支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節感あるものを利用者とともに作り、貼り出したりしている。毎月、自身で塗り絵のカレンダーを作り、居室に貼っている。	空間のあるフロアの一角に胡蝶蘭鉢が並んでいる。中庭のゴーヤが背を伸ばし、緑の樹木がやさしくゆれているのが見える。広々とした廊下と手すりのある長い廊下はレクリエーション・機能訓練に適している。歩行練習も十分可能である。	色々な介護経験を活かし解決する中で、入居者同志の関係づくりがユニット間の移動で落ち着くことも経験している。入居者の個性を活かすため、日常的に職員の意見を大切にし、実践に繋げていく努力を評価したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファにて、気の合った人同士で、過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自身が馴染みあるものを置かれたり、掲示物を行い、居心地の良い空間作りに努めている。また、職員が週に一度シーツ交換を実施し、環境整備を行っている。	入り口には、大きな文字表札が判りやすい位置にある。入居者に合わせたベッドの高さが調節できている。自分で仕上げたカレンダーぬりえが貼られたり、大きな写真等、それぞれの入居者の思いが表出されている。	居室でテレビを観て過ごしたり、自室で昼寝をする習慣もあるとの事、ゆったりと落ち着いた雰囲気がある。入居者が思い思いの行動ができる支援を継続されたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレには、大きく表札をあげ、わかりやすくしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない